岐阜県立岐阜病院病診連携新聞

すこやか

第6号
平成16年2月発行
岐阜県立岐阜病院
病診連携推進部会

病院理念

県民に信頼され、患者さまの立場にたった
よりよい医療を提供するために

一、Humanityに基づいた医療
二、EBM(Evidence Based Medicine)の実践
三、効率的な病院運営

に努めます

病診連携と電子カルテ

県立岐阜病院
医療情報部　大橋宏重

平成12年末に医療のIT化におけるグランドデザインが発表され、医療制度改革の始まりとともに、医療のIT化は重要なテーマとなってきました。また、平成12年3月から施行された第4次改正医療法では、少子高齢化社会を迎え、医療費抑制や質の高い効率的な医療を行う上でも病診連携や病病連携の重要性が強調されるようになりました。しかしながら、紹介状のやり取りが主体の現行の病診連携では十分な情報の相互交流が図れているとは言えず、ネットワーク型電子カルテを使用した病診連携に期待が集まっています。言い換えれば、病院と診療所の連携による医療の分業、長期療養型病院との連携による医療・福祉の一貫性(連続性)の確保、医療圏における患者カルテの共有化(1患者/1カルテ/1地域)を促進することが期待されています。その際には、個人情報保護という観点から、セキュリティーを保持し、プライバシーを保護しながらシステムを構築する必要があることは言うまでもありません。

医療現場はIT導入の遅れた分野と考えられていましたが、当院では平成4年7月よりオーダーリングシステムを、平成13年４月より新診療支援システムを導入し、積極的に病院医療総合情報システムの開発、導入に取り組んできました。平成18年秋には新病院として岐阜県総合医療センター(仮称)がオープンされますが、ペーパーレス、フィルムレスの電子カルテが導入されます。現在、ネットワーク、医用画像管理システム(PACS)の構想がまとまり、具体的な電子カルテの開発、設計に入っています。電子カルテには迅速性と利便性を求めるとともに、病院間の共通化、標準化を追及し、先生方のご意見、ご要望を取り入れながら文字ならびに画像情報を共有して行きたいと考えています。

今後のご指導、ご支援をお願いし、巻頭のご挨拶にしたいと思います。

病診連携のすすめ

岐阜県医師会 川出靖彦

平成15年4月厚生労働省の検討チームが発表した今後の医療提供体制の改革案では、1)患者の選択のための情報提供の推進、2)質の高い医療を効率的に提供するための医療機関の機能分化・連携の推進と地域医療の確保の必要性が述べられています。

岐阜県医師会も現代の患者ニーズに応え、かつかかりつけ医機能の強化を図るべく、岐阜県より助成金を頂いて平成13年度より岐阜市、岐阜地区、さらに西濃地区にて以下のような事業を行っています。

1)病診連携システムの確立(かかりつけ医にとっても、患者にとっても優しく、医療の無駄を省く)。電話とFAXを使用し診療の予約と初診受付を予め行う。そのため病院には病診連携室を作る。今後インターネットでの予約が出来るようなシステムも視野に入れる。

2)病診連携により得られる診療情報提供書、退院総括の電子化により、かかりつけ医の病歴の管理と患者サマリーの作成を推進する。

3)病診連携のための慢性疾患用個別診療情報提供書と管理用クリニカルパスの作成

今後は、全県下に上記3本柱を順次広めたいと計画しています。

平成14年度岐阜地区での事業の終了後、この病診連携システムにより紹介され検査・診察を受けた患者さんを対象としたアンケート調査によれば、

1)予め予約と初診受付の事務処理を行うこの病診連携システムは、楽に検査・診察を受ける事が出来、高く評価された

2)病身連携により精密検査を受けたことを喜び、紹介してくれた医師に信頼感を抱いている。

3)しかし検査についての十分な説明、親切な案内などが不十分だった。

即ちこの結果は、全ての領域を一人で診ようとせず他の医師との連携により調べ治療しようとする医師が信頼され、さらに丁寧な説明や親切な行動などサービス精神が現代医療には求められていることを示唆しているものと思います。医学医療にもパラダイムシフトが起こっているようです。

泌尿器科紹介

泌尿器科部長 酒井俊助

スタッフ

酒井俊助部長、竹内敏視主任医長、谷口光宏主任医長、亀井信吾医師

現状

泌尿器科では、副腎・尿路および男性生殖器に関する様々な疾患を取り扱い、その診断から手術を含めた治療まで行っております。尿路・性器外傷などの救急を要する患者様に対しては、24時間いつでも対応可能な体制をとっております。

病棟は西6階に30床あり、平成14年の入院患者数は915名です。内訳は腎癌26名、腎盂尿管癌32名、膀胱癌142名、前立腺癌176名、精巣癌8名の悪性疾患および腎尿管結石251名、前立腺肥大症110名などで、入院患者数の40%以上は悪性疾患で占められています。

平成14年の手術件数は980件で、内訳は体外衝撃波結石破砕術561件、尿路結石に対する内視鏡手術が78件、前立腺肥大症に対する内視鏡手術が46件、膀胱癌に対する内視鏡手術が61件、膀胱全摘術11件、前立腺癌に対する前立腺全摘術15件、腎癌に対する腎摘術16件(内視鏡下手術8件)、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘術(内視鏡下手術7件)などです。特に、癌治療と尿路結石に対しては地域の基幹病院としての役割を果たすため、最新の医療を提供すること、情報提供をしっかり行うことで今まで以上に信頼されるように努力しています。

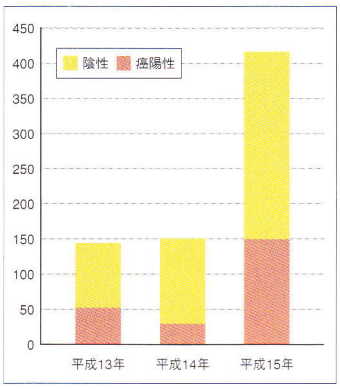
外来患者数は1日約75名で、その内の新患紹介率は35～40%です。多くの先生方から貴重な症例をご紹介いただき、大変有り難く思っております。

トピックス

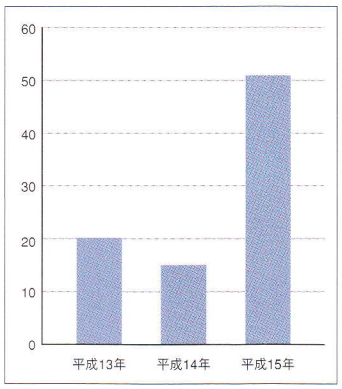
前立腺がん

平成15年度より岐阜県の多くの市町村においてPSA検査による前立腺がん検診がはじまっております。平成15年の前立腺生件数は415件あり、平成14年の150件、平成13年の143件と比較して飛躍的に増加しました。そのため、病期A・Bである限局性の前立腺がんが多く発見され、その治療法の1つである前立腺全摘術は51件と驚異的に増加しました。現在、欧米で普及している前立腺内に放射性物質である小線源を密封する小線源療法は、近い将来日本でも限局性の前立腺がんに対する治療法の1つとなることが期待されています。当院においてもヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の導入を検討しています。

■前立腺生検数の推移



■前立腺全摘数の推移



皮膚科紹介

皮膚科部長 前田　学

全国レベルでも決して引けをとらない皮膚科学的に総合した幅広い診断・治療を目指して日夜邁進いたしております。岐阜県内は言うに及ばず愛知県から西は大阪、京都、奈良、滋賀県からも多数の患者が受診中です。

スタッフ

部長:前田学、医長:永井美貴、医師:山崎隆治、レジデント:藤沢智美、研修医:日置加奈

診療分野とその内容

1.皮膚科領域全般:“できない治療はない”をモットーといたしております。医真菌症も広く手がけ、真菌培養・同定までスタッフで実施いたしております。これまでにノカルジア症、フザリウム爪真菌症など稀な症例も報告いたしております。

2.アトピー性皮膚炎(成人型を含む)、アレルギー皮膚疾患で必要な場合には皮膚貼付試験(金属アレルギー、各種薬品、化粧品等)や皮内テストまで実施致しております。皮膚皮内テスト・貼付試験(パッチテスト)による原因追及をいたしております。

3.各種の膠原病では特に、シェーグレン症候群や全身性強皮症、皮膚筋炎等に力を入れ、膠原病の入院患者は常時数名(13床中)で、外来での加療中の患者は不全例を含め数百人に上ります。

4.皮膚科領域全般の漢方薬(エキス顆粒と一部煎じ薬・丸薬)と一部針療法(皮内針や低周波置針療法)を取り入れ各種の効果を得ています。特に全人的な治療を目指し、消化器官の整えから(たとえば便秘がある時には大黄甘草湯を、下痢傾向のある時には真武湯など)投与し、代替え医療、特に東洋医学的な医療との融合をめざしております。

5.良性・悪性腫瘍皮膚科手術;外来手術及び生検数は週16例(月・水・金午後)以上で、かつ入院手術数は年150例以上(火・木午後各2件)に上り、病理組織検査検体数は年間約1000件(病院全体の20%)を数え、岐阜県下では最多と自負いたしております。

6.レーザー治療{保険及び自費診療:老人性色素斑(シミ、フスベ等)}80%以上は自費診療ですが、平成13年度から開始いたし、これまでの総数は160例以上に上ります。金曜日の午後2時30分より予約制で実施中で週10例までと制限を加えるほどになっております。一回当たり1万円前後と格安なために遠くは大阪あたりから新幹線で通ってくるほどになっております。

7.学童外来の設置毎週水曜日の夕方(15時30分から16時30分まで)には学童を主にアトピー性皮膚炎や各種皮膚疾患患者を治療いたしております。

8.病理組織検討は毎週月曜日の夕方スタッフ全員で行い、さらに問題症例は病理部(岩田仁部長、片山雅貴先生、笹岡郁也元部長ほか)との合同討論会(月2回)で詳細に検討し、より正確な病理診断を目指しております。

医療器具や設備

1.サーモグラフィー:振動病の循環動態の検討やASO患者や各種膠原病患者の末梢循環不全の血流動態の客観的な観察や各種薬剤の効果判定、植皮部の生着状態の確認に応用いたしております。

2.ビデオスコープ:表面形態の微細構築の観察を通して皮膚疾患の診断に有用で、特に各種色素性疾患や悪性黒色腫の診断補助、さらには爪郭部の係締変化や爪上皮の出血及び舌乳頭の変化を観察することで各種の膠原病患者の診断補助にも常時多用中で経時的に外来観察中の患者総数は800名以上に上ります。

3.Qスイッチレーザー:太田母斑、扁平母斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青に対して保険適用による治療可能で、老人性色素斑や各種の色素性疾患、黒皮症には自費診療で前述のように対応中です。

4.電気凝固療法(サージトロン):老人性疣贅や母斑細胞性母斑の除去及び皮膚良性腫瘍の摘出ないし生検に応用いたしております。

最近の話題・トピックス

全人的な診断と治療を特にシェーグレン症候群患者やその予備軍に伴う各種皮膚疾患(皮脂欠乏性湿疹、紫斑、薬疹、環状紅斑など)を中心にドライスキンとドライアイ、ドライマウスとの相関を中心に観察中ですが、ドライトリアスともいうべき症例の多いことに驚愕いたしております。かかる例は各種の腺分泌異常をも伴いやすく、甲状腺疾患や肝疾患、腎疾患、糖尿病を背景に有する例が多いことも徐徐にわかって参りました。口渇やドライアイを訴える患者には唾液腺シンチグラフィー(週3回予約枠あり)や口唇生検までルーチンに行っておりますので、疑い例や典型例をご紹介いただきますと幸いです。

以上当皮膚科外来及び入院における現況と抱負を簡単に紹介させていただきましたが、今後とも諸先生方々のご鞭撻・ご指導を賜りますれば幸いです。

診療医師担当日表

病院管理者　院長　清水　勝　H16・1・1現在

		月	火	水	木	金
内科	一番	八巻（循環器科） 松尾（循環器科）	大野（腎臓科） 廣瀬（循環器科）	松尾（循環器科） 琴尾（循環器科）	瀬川（循環器科）	松尾（循環器科） 小野（禁煙外来）
内科	二番	田中（循環器科） 小田（腎臓科）	瀬川（循環器科）	大橋（腎臓科）	小田（腎臓科） 岩間（循環器科）	大橋（腎臓科）
内科	三番	渡辺佐（循環器科）	渡辺佐（循環器科）	松野（循環器科）	渡辺佐（循環器科） 松野（循環器科）	渡辺佐（循環器科）
内科	特殊外来		大橋（CAPD）	渡辺佐（ハートクリニック） 廣瀬玲（女性外来）午前（初診）午後（再診）	大橋（CAPD） 廣瀬（ペースメーカー）	松野（ペースメーカー）
内科	五番初診	安田	大西	大西	大西	小林（初診・再診）
内科	六番	清水（肝） 西田（神）午後予約のみ	清水（肝） 小林　午後（胃透視結果説明）	岩田（消化器）	西田（神）	西田（神）初診
内科	七番（再診）	北川（神）	福富（消化器）	安田（呼吸器） 小林　午後（胃カメラ結果説明）	清水省（消化器）	鮏（呼吸器）初診・再診
内科	八番	診療医不定（総内）	診療医不定（総内） 坂本（心身）午後	診療医不定（総内）	丹羽（総内）（再診）	診療医不定（総内） 診療医不定（心身）午後
内科	九番	村山（総合内科）（再診・初診）	吉野（総合内科）（再診・紹介初診）	村山（総合内科）（再診・紹介初診）	吉野（総合内科）（再診・初診）	村山（総合内科）（再診・紹介初診）
小児科		今村（小児） 奥田（小児） 今村（脳波外来）午後 鈴木（心理外来）午後	今村（小児） 松尾（小児） 樋口（心理外来）午後	今村（小児） 奥田（小児） 松尾（腎臓・肝臓外来） 鈴木（心理外来）午後	今村（小児） 安達（小児） 松尾（内分泌アレルギー） 鈴木（心理外来）午後 樋口（心理外来）午後	今村（小児） 松尾（小児） 今村（発達外来）午後 奥田（神経内分泌外来） 樋口（心理外来）午後
小児循環器科		桑原尚（予約のみ）	桑原尚（午前）	桑原尚（午前）	桑原尚（午前）	（休診）
新生児科		河野（午後） 鈴木（心理外来）午前	長澤（午後）1,3 週 山本（午後）2,4 週	河野（午後） 鈴木（心理外来）午前	伊藤（午後）1,3 週 笠原（午後）2,4 週	河野（午後） 樋口（心理外来）1,3,5週
外科	一診	國枝　三澤	三澤　古市	松井　河合	古市　三澤	大橋　國枝
外科	二診	松井　福井	河合　太和田	福井　太田	國枝　河合	福井　太田
整形外科		飯沼（初診） 平川（再診）	横井（初診） 喜久生（再診）	鈴木（予約再診のみ）	平川（初診） 横井（再診）	喜久生（初診） 飯沼（再診）
脳神経外科		谷川原　服部	（手術）	山川　服部	榎本　谷川原	山川　服部
心臓血管外科		村上 又は 宮内	（手術）	澤村	（手術）	滝谷
小児心臓外科		（手術）	竹内・滝口（午後）	（手術）	（手術）	（手術）
皮膚科		前田・永井・藤沢 （検査）	前田（初診のみ）（特殊治療） （手術）	永井・前田・藤沢 学童外来	藤沢・前田・永井 （手術）	永井・藤沢 （検査）
泌尿器科		竹内	酒井	谷口	診療医不定（初診のみ） 神経因性膀胱外来（予約制）	亀井 尿失禁外来（予約制）
産婦人科		山田（初診・再診） 篠原（妊婦検診） （検査）	篠原（初診・再診） 平野（妊婦検診） （手術）	山田（初診・再診） 成川（妊婦検診） （手術・検査）	成川（初診・再診） 平野（妊婦検診） （手術）	篠原（初診・再診） 成川（妊婦検診） （検査）
眼科		直原・丹羽 （手術）	丹羽 （斜視・弱視外来・外来手術）	直原・丹羽	直原・丹羽・熊田	診療医不定 （手術）
耳鼻咽喉科		柳田正・柳田三・菱田 （手術）	柳田正・柳田三・菱田 （予約検査）	（手術）	柳田正・柳田三・菱田 （予約検査）	柳田三・菱田 （手術）
放射線科		三宅	三宅	（検査）	三宅	三宅
歯科口腔外科		石丸 （手術）	水井	石丸・水井 （検査）	石丸 （手術）	石丸・水井 （顎関節外来）

＊受付時間／平日 8:30から11:00まで

編集後記

岐阜県立岐阜病院病診連携新聞第6号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役にたてる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしています。

岐阜県立岐阜病院

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
TEL（058）246-1111（代）　FAX（058）248-3805
http://www.pref.gifu.jp/gifu_hospital

発行／岐阜県立岐阜病院病診連携推進部会